

教皇フランシスコの若者への手紙 世界代表司教会議（シノドス）第15回通常総会準備文書発表に際して

親愛なる若者の皆さん、

わたしは、2018年10月にシノドスを、「若者、信仰、そして召命の識別」というテーマで開催することを、喜びをもって発表します。わたしは、皆さん自身が注目的になることを望んでいました。なぜなら、わたしの心には皆さんがいるからです。今日、準備文書が発表されました。この文書は、わたしが皆さんに、今回のシノドスの旅における「コンパス」として委ねるものでもあります。

わたしは、神がアブラムに話されたことばを思い起こしています。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れてわたしが示す地に行きなさい。」（創世記12・1）。このことばは、今も皆さんにのべられています。このことばは、皆さんに「行く」、つまり未来に向かって出発するよう招いている、父なる神のことばです。未来は未知なるものですが、必ず満ち足りたものに、父なる神ご自身が皆さんに寄り添い、目指す未来につながるでしょう。わたしは、皆さんが聖霊の息吹によって、心に響く神の声を聴くよう招きたいと思います。

神がアブラムに、「行きなさい」と言われた時、神は何を言いたかったのでしょうか。神はもちろん、アブラムを彼の家族から遠ざけようと、あるいは世界から離れさせようと言ったのではありません。アブラムは、あらいぐましい招待状、すべてを置き去りにして新しい地へ行くという課題を受け取ったのです。若者である皆さんが、世界の果てに築きたいと心から望み願っている、公正で優しい社会でないとしたら、この「新しい地」は、現代のわたしたちにとって、いったい何なのでしょう。

ところが不幸にも、今日、「行く」ということばには、異なる意味があります。すなわち権力の乱用、不正、戦争です。皆さんの中の多くが、暴力という真の脅威にさらされ、母国から逃げることを強いられています。その人たちの叫びは、エジプト王に奴隷にされ、抑圧されたイスラエルの人々の叫び声のように、神に届きます（出エジプト2・23参照）。

わたしはまた、かつてイエスが、弟子たちに尋ねられた時に言われたことばを思い出してもらいたいと思います。「先生……どこに泊まっておられるのですか」と言うと、イエスは、「来なさい。そうすれば分かる」と言われました（ヨハネ1・38）。イエスは皆さんを見て、ご自分について来るように招いています。親愛なる若者の皆さん、皆さんに向けられたこのまなざしに気付いたことはありますか。この声を聴いたことはありますか。この旅を始めたいという気持ちになったことはありますか。騒音や困惑がこの世界に広く行き渡

っているように見えますが、わたしは、この呼び声が皆さんの心の奥に響き続け、その充満に喜びを見いだせるよう皆さんの心をきっと開くと、確信しています。このことは、皆さんが自分の人生における神のご計画を発見するために、識別の旅を専門的な指導者と一緒にとどのように始めるかを学ぶときにはじめて可能になるでしょう。その旅が不確かで皆さんがつかずく時でさえ、いつくしみ深い神は、皆さんを立ち上がらせるために手を伸ばしてくださるでしょう。

クラクフでのワールドユースデー最終日のはじめに、わたしは皆さんに、「わたしたちは、物事を変えることができるでしょうか」と何度か尋ねました。そして皆さんは、「はい」と叫びました。その叫びは、決して不正を許さない、「使い捨て文化」に従わない、無関心のグローバルゼーションに負けないという皆さんの若い心から生じたものです。皆さん自身の内から生じる叫び声に耳を傾けてください。皆さんが、預言者エレミヤのように、若さの未熟さを感じる時でさえ、神は、ご自分が皆さんを遣わした場所へ行くように皆さんを励まします。「恐れるな。わたしがあなたと共にいて、必ず救い出す」(エレミヤ 1・8)。

よりよい世界は、皆さんの努力、変えたいという欲求、広い心の結果としても、築かれます。勇気ある選択を求める聖霊に、耳を傾けることを恐れしないでください。皆さんの良心が、主に従うことにおいてリスクを負うよう求める時、先延ばしにしないでください。教会もまた、皆さんの声、感受性、信仰、そして皆さんの疑いや批判に耳を傾けたいと望んでいます。皆さんの声を聴かせてください。その声を、共同体の中で響き渡らせ、司牧者たちに聴かせてください。聖ベネディクトは、大修道院長に、若者にも何か重要な決定の前には相談するよう勧めました。なぜなら、「神は時に、若者にも最善なことを表す」からです(『聖ベネディクトの戒律』 III 3)。

このシノドスの旅においても同じです。兄弟である司教の皆さんとわたしは、さらにいっそう「あなたがたの喜びのために協力し」(二コリント 1・24)たいと望んでいます。わたしは、皆さんのように若く、神が愛をもって見守られたナザレのマリアに皆さんを委ねます。そうすれば、マリアは、きっと皆さんの手を取って、「はい」(ルカ 1・38 参照)と答えて、神の招きに十分に惜しみなく応えるという喜びへと、導いてくださるでしょう。

父なる愛とともに
フランシスコ

パチカン、2017年1月13日